

青少年読書感想文全国コンクール県最優秀賞

輝いています

# ひと

## 河合 瑠菜 さん

### 新たな世界で得た言葉を紡ぐ



図書室で賞状を手にする河合さん

## 夏

休みの宿題の定番、読書感想文。毎年400万超の応募がある全国コンクールで、中央東小学校6年生の河合瑠菜さん(11歳・中央1丁目)は、この度5年連続県で入選し、更には県最優秀賞受賞と全国入選を果たしました。今回河合さんが選んだ本は、自分の名前と読みが同じで大好きな言葉「月」を冠する「月と珊瑚」。戦争の悲しい歴史がある沖縄を舞台に、民謡歌手の祖母に育てられる珊瑚と、東京から来た月という二人の少女が悩みを乗り越えて成長し、将来を考える物語です。河合さんにとって読書の魅力は、知らない世界にわくわくして文字を追うなかで、新

しい考えに出合い行動できるようになること。今回の感想文でも、珊瑚の出自を知った後も揺らがない月の優しさや背景にある沖縄の歴史に感化されて、自身の曾祖父の体験に迫り、戦争への認識を新たにする様子が記されています。「自分の言葉が多くの人々の心に響き、評価されたことがうれしかったです」と語る河合さん。その表現力は幼い頃からの豊富な読書のたまものです。母親の読み聞かせで本が好きになり、現在も毎月1冊は必ず本を購入。書籍の無料配信も活用し、昨年度の読書記録は132冊・2万4068ページに上ります。「明るい性格で、図書委員に立候補して、下級生にお薦めの本を教えてくれています」と担任の杉田先生。子どもたちに読書の良さを伝えられる笑顔がすてきな先生になるという夢を抱いて、持ちまえるの行動力を発揮しています。今年の夏は小学生で最後のコンクール。新たな本に出合った河合さんから紡ぎ出される言葉は、再び私たちの心を動かしてくれることでしょう。 ※感想文全文は図書館にある3月2日付け毎日新聞で閲覧できます。

### 今月の河鍋暁斎記念美術館

# 天才絵師の作品 蕨にあり

—No.59—



暁斎筆 「薔薇と鶺鴒と蝶」 万延元年(1860) 紙本色摺 団扇絵

幕末から明治初期にかけて活躍した暁斎は、肉筆画だけでなく、多色摺木版画(錦絵)や本の挿絵、千代紙など、あらゆる版画作品も制作しました。薔薇と鶺鴒(クイナ科の鳥)、そして蝶を描いた本図は、団扇のため描かれた作品で、校正のために摺られた墨線だけの校合摺も河鍋家に伝わっています。今回

の企画展では、その両方を展示していますので、校合摺の墨線の影りと、完成作品の色彩の鮮やかさ、それぞれの良さを比べて鑑賞することができます。



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ 暁斎 天保2年(1831) ~明治22年(1889)

### 河鍋暁斎記念美術館 「暁斎・暁翠が描く花鳥画」展 同時開催 開催中 「第2回 暁斎を彩る-うちわ絵 色差し-」展

開館=午前10時~午後4時  
休館=火曜日、木曜日、毎月26日~末日  
ところ=南町4-36-4  
入館料=一般600円 高校生・大学生500円 小・中学生300円 65歳以上500円  
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください  
詳細=同館 ☎441-9780



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください